

為替週間展望 = ドル円は底堅く、110円乗せの可能性も

[12月16日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		12月9日～12月13日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	108.65	109.63(13)	108.43(9)	109.58	+1.00
ユーロ・ドル	1.1055	1.1199(13)	1.1051(9)	1.1170	+0.0110

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
日経平均株価	24,023.10	+668.70	日本10年債利回り	-0.015	-0.009
ダウ平均株価	28,132.05	+116.99	米10年債利回り	1.892	+0.056

=====

<来週の主要経済統計等>

- 16日 英12月ライトムーブ住宅価格
 - 中国11月鉱工業生産指数、中国11月小売売上高
 - 米12月NY連銀製造業景気指数
 - 米10月対米証券投資
- 17日 豪中銀(RBA)議事要旨
 - 英11月雇用統計
 - ユーロ圏10月貿易収支
 - カナダ10月製造業出荷
 - 米11月住宅着工・許可件数
 - 米11月鉱工業生産・設備稼働率
- 18日 NZ第3四半期経常収支
 - 日本11月貿易収支
 - 豪第3四半期住宅価格指数
 - 独11月生産者物価指数
 - 独12月ifo景況感指数
 - 英11月消費者物価指数、英11月生産者物価指数、英11月小売物価指数
 - ユーロ圏11月消費者物価指数
 - 米MBA住宅ローン申請件数
 - カナダ11月消費者物価指数
- 19日 NZ第3四半期国内総生産(GDP)、NZ11月貿易収支
 - 豪11月雇用統計
 - 日銀金融政策決定会合(18～19日)・金融政策発表
 - 黒田日銀総裁記者会見
 - 英11月小売売上高
 - 英中銀(BOE)政策金利
 - カナダ10月卸売上高
 - 米12月フィラデルフィア連銀景況指数
 - 米新規失業保険申請件数、米第3四半期経常収支
 - 米11月中古住宅販売件数、米11月景気先行指数
- 20日 日本11月消費者物価指数
 - ユーロ圏10月経常収支
 - 英第3四半期国内総生産(GDP)確報値
 - カナダ10月小売売上高
 - 米第3四半期国内総生産(GDP)確報値
 - 米11月個人所得・支出、米12月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値

【前回のレビュー】今回のFOMCでは政策金利は据え置きの見通しのため、FOMCメンバーによる景気や政策金利見通しによほどの振れがない限りが極端な動きとはなりにくく、ドル円は108円台前半では底堅いとみられ、引き続き108～109円台での推移が見込まれるとした。

【米中貿易協議の合意報道で株高・円売りの動き】

12日の米国市場で、「米中貿易協議で第1段階の合意に達したもよう」「米国による15日の対中関税第4弾の発動は見送り」との報道から米国株が大幅高となった。ドル円は108円台半ばでもみ合いから109円台半ばまで大きく上昇した。13日には日経平均が500円超の急騰となり2万4000円超まで上昇する展開となった。ドル円は109円台半ばで底堅い動きとなっている。

また、英国の総選挙では、出口調査で与党保守党の圧勝と報道されたことから、合意なき欧州連合（EU）離脱が回避されるとの見方から、ポンドが急騰した。ポンド円は148円に迫り、ポンドドルは一時1.35台に乗せた。米国と英国からポジティブなニュースが出てきたことで、ドル円やクロス円は大きく上昇している。

【FOMCでは政策金利据え置き】

10～11日の米連邦公開市場委員会（FOMC）では大方の予想通り、政策金利は据え置きとなった。今年はすでに3回の利下げを実施しており、さらに前回のFOMCで目先の利下げは打ち止め感が出ていたことから、据え置きとの見方が広がっていた。

パウエル議長は記者会見で、現在の金利が適切との見方を示し、当面の金利据え置きを強調した。一方で利上げについては「著しく持続性のあるインフレ加速が必要」と述べ、利上げについてはハードルの高さを強調した。

FOMCメンバーによる政策金利見通し（ドット・プロット）では来年1年間の政策金利の据え置き見通しが示された。これを受けて、ドル売りの動きに傾き、ドル円は108円台後半から半ばまで下落した。ただ、その水準からドル円は下げ渋りを見せることとなった。

ドル円は108円台でもみ合いが続いた後、米中の貿易協議の合意報道や英総選挙での与党保守党の勝利のニュースなどから、109円台を回復して堅調な流れを見せている。ドル円は下げても底堅い流れを続けており、110円乗せを試す可能性もありそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、108.50～110.25円。

なお、18～19日に日銀金融政策決定会合が開催される。今回も金融政策に変更はないとみられる。日銀は打ち出せる手段が限られている上、円高や株安が進行しているような場面でもなく、新たな手段を打ち出してくる可能性は低いとみられる。また、最近の黒田総裁の記者会見は新鮮味に乏しく、市場への影響は限定的となりそうだ。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、16日に米12月NY連銀製造業景気指数、米10月対米証券投資、17日に米11月住宅着工・許可件数、米11月鉱工業生産・設備稼働率、18日に日本11月貿易収支、米MBA住宅ローン申請件数、19日に日銀金融政策決定会合（18～19日）・金融政策発表、黒田日銀総裁記者会見、米12月フィラデルフィア連銀景況指数、米新規失業保険申請件数、米第3四半期經常収支、米11月中古住宅販売件数、米11月景気先行指数、20日に日本11月消費者物価指数、米第3四半期国内総生産（GDP）確報値、米11月個人所得・支出、米12月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

【ECB理事会では金融政策は据え置き】

12日の欧州中央銀行（ECB）理事会では、金融政策は据え置きとなった。ラガルド新総裁の記者会見では、ユーロ圏の景気について底打ちの兆しがあるなどと述べたことからユーロ買いにつながる場面もみられた。ユーロドルはポンドドルにつれ高した面もあり、1.1200ドル超では伸び悩みを見せるとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1100～1.1250ドル。

ポンドドルやポンド円は英総選挙の出口調査で与党保守党が圧勝する見通しと報じられたことで、13日の朝方から急騰した。ポンドドルは1.31台後半から1.3500ドル近辺まで上昇、ポンド円も143円台半ばから148円近辺まで大きく上値を伸ばした。いずれも急騰の反動安が警戒されるが、堅調な推移となりそうだ。目先の予想レンジはポンドドルが1.3100～1.3600ドル、ポンド円は145.00～149.00円。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、16日に英12月ライトムーブ住宅価格、中国11月鉱工業生産指数、中国11月小売売上高、17日に豪中銀（RBA）議事要旨、英11月雇用統計、ユーロ圏10月貿易収支、カナダ10月製造業出荷、18日にNZ第3四半期経常収支、豪第3四半期住宅価格指数、独11月生産者物価指数、独12月IFO景況感指数、英11月消費者物価指数、英11月生産者物価指数、英11月小売物価指数、ユーロ圏11月消費者物価指数、カナダ11月消費者物価指数、19日にNZ第3四半期国内総生産（GDP）、NZ11月貿易収支、豪11月雇用統計、英11月小売売上高、英中銀（BOE）政策金利、カナダ10月卸売上高、20日にユーロ圏10月経常収支、英第3四半期国内総生産（GDP）確報値、カナダ10月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買については御自身の判断でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。